

脱・ペットボトルは世界のトレンド

ペットボトルの水やお茶を買うのは、今や多くの人にとって日常的な行動です。「のどが渴いたときどこでも買える」「水道水よりおいしい気がする」。しかし世界の各地では、環境面でもコスト面でも水道水のほうが優れていると、ペットボトルから水道水に再びシフトする動きが広がっています。

■ 世界各地でペットボトル飲料水禁止の動き



米国では、自治体が、ペットボトル飲料水を購入することを禁止する動きが広がっています。自治体は、自らが安全な水道水を供給していることに自信を持っており、ペットボトルごみの

増加は廃棄物行政を圧迫しているのです。

ロサンゼルス市は、いち早く、1997年以来、市の予算でのペットボトル飲料水購入を制限してきました。2007年、全米市長会で、ペットボトル飲料水が環境に与える影響について議論されたのをきっかけに、同様の対策を取る自治体は続々と増え、現在60以上にのぼっています。

サンフランシスコ市は、2007年に市のすべての部局でのペットボトル飲料水購入を禁止し、年間で50万ドル(約5,000万円)を節約しました。

膨れ上がるごみ処理費用に悩む自治体は、市民や事業者によるペットボトル飲料水購入に歯止めをかける対策も始めました。シカゴ市では、ペットボトル飲料水1本に5セントの税金をかけるという画期的な手段をとりました。ニューヨーク市などでは、市内のレストランにペットボトル飲料水の提供をやめるよう働きかける「水道水に戻ろう」キャンペーンを実施しています。

オーストラリアのシドニー近郊にある人口2,500人の町、バンダヌーンは、2009年7月、町内でのペットボトル飲料水の販売を禁止することを住民の圧倒的多数の支持を得て可決し、条例を制定しました。その決断は世界の注目を集めています。

また英国では、2008年3月、政府がすべての省庁の会議でのペットボトル飲料水の調達を禁止することを発表しました。脱ペットボトルの動きはすでに国レベルにまで進んでいるのです。

■ ペットボトル飲料水のCO₂排出量は水道水の1,000倍

2007年の日本全国でのペットボトル販売量は、約57万トン(ペットボトルリサイクル推進協議会)。この十数年で約5倍に増え、特に水とお茶は著しく増加しました。従来は水は水道の蛇口から汲み、お茶はその水を沸かして淹れていたのに、この十数年で日本人の習慣はすっかり変わってしまいました。

ペットボトルの水のほうが安全でおいしい? 京都市水道局は、2009年、水道水、国産ミネラルウォーター、外国産ミネラルウォーターを飲み比べてもらう「利き水」調査を実施しました。すると「一番おいしい」という回答が最も多かったのは水道水だったのです。

東京大学の平尾雅彦研究室の飲料水のライフサイクルの環境負荷比較調査(2009年3月日本LCA学界で発表)によると、ペットボトル入りミネラルウォーターの生産・流通におけるCO₂排出量は、水道水の約1,000倍にもなるといいます。つまり、ペットボトルから水道水に切り替えれば、CO₂排出量を1,000分の1に削減できることになります。

日本の自治体でも、愛知県豊田市や奈良県生駒市が、使い捨てるペットボトルや缶の使用削減とエネルギー節約のため、庁舎や公共施設内の自動販売機を撤去しています。

近年は水筒ブームが広がり、物心ついたところからペットボトルに慣れてきた若者にも変化が現れてきました。給茶・給水スポットなども、街中に増えてきました。日本にも、脱ペットボトルの波はすでに訪れているようです。

< ペットボトル飲料水をめぐる世界各地の動き >

方法	地域
省庁での調達禁止	英国
自治体内での販売を条例で禁止	豪：バンダヌーン
市役所や公共施設での調達禁止	米：ロサンゼルス、サンフランシスコ、 デヴィスなど60自治体 加：バーナビー 伊：フィレンツェ
税の導入	米：シカゴ
市民やレストランへの水道水推奨	米：ニューヨーク 加：トロント 豪：ニューサウスウェールズ州 仏：パリ 伊：ローマ

「スタバウォッチャー2009」 ～全国164店舗のスタバでマグ使用状況調査 マグ率は約4割に

FoE Japanは、廃棄物発生抑制のポテンシャルの大きい分野であるファストフード、コーヒーショップチェーンの中で、特に影響力の大きいスターバックスコーヒーに対して、店内ではマグなどのリユース容器で提供するよう、2004年から多くのユーザーとともに働きかけてきました。これまで、様々なアクションや同社との話し合いを重ねながら、店舗での変化を見守ってきました。

そのリユース推進の進捗状況を確認するために、2009年秋、全国の店舗を対象に、店内でのホットドリンク提供におけるマグの使用状況を調査する「スタバウォッチャー2009」を実施しました。全店舗数の約2割にあたる164店舗のデータを収集し、より正確に実施状況を把握するとともに、現場オペレーションの方法や地域による傾向分析を行いました。

その結果、調査した店舗の42%で、ホットドリンクを原則マグで提供しており、4年前の調査と比べて、さらにマグの利用が進んでいることを確認しました。

同社広報部によると、2009年度より、リユースの推進をより強化して

いるとことで、その成果が、今回の「マグ率」向上にも現れてきたといえるでしょう。

FoE Japanは、今回の調査結果とともに、

◇2010年度以降の「マグ率」の野心的な目標設定

◇アイスドリンク用のリユース対応

を求めるメッセージを同社に届けました。

今回の調査には、多くのスターバックスコーヒー愛用者が調査員として参加しました。「積極的にマグで提供している店は、コーヒーの入れ方も上手」などの感想が寄せられました。調査員たちは、今回の調査データが、同社のさらなるリユース推進の取組みの一助となることを願っています。

スタバ愛用者の皆さん、「店内ではおいしくマグで」が、スタバのスタンダードになるように期待して、引き続き働きかけていきましょう。

調査報告詳細はこちら：

<http://www.foejapan.org/waste/stb/100106.html>

鴨川を眺めながらマグで
抹茶ティーラテを
(京都三条大橋店で)



News Flash

ペットボトルリユース実証実験結果の取りまとめ

【8月/全国】環境省の「ペットボトルをはじめとした容器包装のリユース・デポジット等の循環的な利用に関する研究会」(座長：安井至 国連大学名誉副学長、東京大学名誉教授)による2008年度実証実験結果が発表されました。回収率は、スーパー等で販売し店頭で回収する「オープンシステム」で約50%、宅配事業者による「クローズドシステム」では約95%となり、高い回収率を確保できる場合には、全体の環境負荷も低くなることがわかりました。

※詳細：ペットボトルリユース実証実験の結果

<http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=11451>

八都県市はマイボトル宣言!

【12月/全国】八都県市(埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、横浜市、川崎市、千葉市、さいたま市)は、2009年10月の1ヶ月間、域内のコーヒーショップチェーン等と協力し、



マイボトルの使用を呼びかけるキャンペーンを実施しました。ドール、スターバックスなど、14チェーン(1,671店舗)が参加し、各店舗やJRの車内広告でPRしました。期間中のマイボトル持参率は、2.18%でした。

※詳細：http://www.8tokenshi.jp/21/my_bottle/index.html

エコでお洒落な交換パーティー xChange(エクステンジ)2010 Winter

【イベント/東京】クローゼットに眠っている洋服、もらったけど使わないもの・誰かが使ってくれたらなあ。年末年始の片付けで発掘したそんな服や物を持って、FoE Japanに集まりましょう!あなたの使わないものが、誰かの役に立ち、あなたが気に入ったものは自由に持ち帰ることができます。

〈日時〉2010年2月6日(土)14:00~16:00

〈場所〉FoE Japan(東京・池袋)

〈参加費〉サポーター500円 一般800円(お茶・お菓子つき)

※詳細・申込はホームページへ <http://www.foejapan.org>

From FoE Japan

「脱・使い捨てNEWS」メールマガジンにご登録ください!

紙の使用量削減のため、基本的にPDFファイルをウェブ上にアップし、メールマガジンで発行をお知らせしています。

登録はこちらから

http://www.foejapan.org/waste/D_news/index.html

このニュースをより多くの方に購読いただくため、メルマガ、メーリングリスト等でご紹介いただけましたら幸いです。

発行 国際環境NGO FoE Japan www.foejapan.org

脱・使い捨て社会プロジェクト tsukaisutezero@foejapan.org

インターン・ボランティア募集

脱・使い捨て社会プロジェクトをお手伝いいただけるインターン・ボランティアの方を募集しています。

【業務内容】

国内外の脱・使い捨ての取組みに関する調査・研究、および付随する業務

【勤務条件】

曜日、時間帯はご相談に応じます。定期的に来ていただけるインターンの方には、交通費を支給します。

〒171-0014 東京都豊島区池袋3-30-8 みらい館大明1F